

令和 6 年度事業の考え方

2. 施設及び事業の概要 (3) 環境啓発事業等の概要

前回資料の
再掲

名称	対象・規模	概要
◆イベント(1日間程度)		
むさしの環境フェスタ	子ども・子育て世代、地域住民 5,700人/日程度	市民啓発とともに、市民団体等の活動発表や交流を図る。R5年度は27団体が出展
エコチャレンジ(講演会含む)	各種環境啓発事業の参加者 50~2,000人/日程度	連続講座参加者やゼロパートナー認定事業者等が一堂に会し情報交換、交流する。
◆連続講座(5日間程度)		
環境の学校	15歳以上 10人程度	サポーター参加者を募るため、環境全般から市内地域の環境問題について学ぶ連続講座
環境の学校youthプロジェクト	高校生・大学生 10人程度	高校生・大学生が環境問題、社会課題の解決に取り組む連続講座
◆ワークショップ(1か月程度)		
夏、冬、春のワークショップ	子ども・子育て世代 200~400人/月程度	年3回、1か月程度の期間を設定し、20件程度のワークショップ・講座を実施。市民団体の活動の場にもなっている。
◆1階運営、自由来館対応(開館日、1年間)		
ものづくり工房	子ども・子育て世代 5,000人/月程度	常設のワークスペース。廃材利用し自由に工作ができる。来館者の大半を占めている。受付及び安全管理
フリースペースの展示	市民全般 50~100人/月程度	イベント等で作成したパネル等の常設展示
◆その他		
環境展	市民全般 50~100人/月程度	環境月間(6月)に合わせて、国の環境施策などについて周知するためのパネル展示等
緑のカーテン	市民全般 200~250人程度	レポーターを募集。レポーターにはゴーヤ苗を配布し、生育記録等のレポートを提出してもらう。
施設予約利用	個人、団体、事業者等 30~40件/年程度(見込み)	市民団体による啓発講座等を想定したが、会議利用などが多い。
見学、視察対応	小学校見学15件、中学体験5件 その他視察等30~40件程度	小学校見学は1校が2~3回に分けて来館。1回あたり半日程度 海外からの視察や行政視察も多い。
情報発信		日常的なSNS発信のほか、イベントでは市報、チラシ、市HP、市SNS、エコリゾHP、エコリゾSNS、申込みフォームの作成、副読本作成など
市政策との連動事業(気候市民会議等)		

- ◆中高大学生向けの連続講座等のアプローチについて
 - ニーズやアプローチ方法のポイント

- ◆大学生から大人向けの連続講座等のアプローチについて
 - ニーズやアプローチ方法のポイント

- ◆ものづくり工房及びフリースペース運用について
 - フリースペースの展示以外の運用
 - ものづくり工房における まちとのつながり

環境の学校 Youthプロジェクト

名称	対象・規模	概要
◆連続講座(5日間程度)		
環境の学校	15歳以上 10人程度	サポーター参加者を募るため、環境全般から市内地域の環境問題について学ぶ連続講座
環境の学校youthプロジェクト	高校生・大学生 10人程度	高校生・大学生が環境問題、社会課題の解決に取り組む連続講座

(R5年度目標)

サポーター養成に必要な参加者数の確保

R5「環境の学校 youthプロジェクト」の構成

- (1)「課題解決」とは
- (2)市内事業所の取組事例
- (3)市内大学生の取組事例
- (4)「クラウドファンディング」とは
- (5)チームビルディング
- (6)チームごとのプラン検討

(R6年度目標)

サポーター養成に必要な参加者数の確保

- インセンティブを明確化
- 現場に触れる機会を創出
- アウトリーチを推進

学生に伝えるべきこととは…

- Ex.都市生活関連の新たな取組事例の見学
- Ex.施設及び余白を使った取組み

環境の学校

名称	対象・規模	概要
◆連続講座(5日間程度)		
環境の学校	15歳以上 10人程度	サポーター参加者を募るため、環境全般から市内地域の環境問題について学ぶ連続講座
環境の学校youthプロジェクト	高校生・大学生 10人程度	高校生・大学生が環境問題、社会課題の解決に取り組む連続講座

(R5年度目標)

サポーター養成に必要な参加者数の確保

R5「環境の学校」の構成

(1)公開講座…間口を広くし参加者を集める

- ①環境漫画家、②地消地産ビール、③東京野菜

(2)スキルアップ講座…団体運営ノウハウ習得

- ①グラレコ入門、②ワークショップの作り方

(3)連続講座…地球環境,武蔵野市の環境を学ぶ

- ①気候変動 × カードゲーム
②武蔵野市の水と緑 × フィールドワーク
③むさしのSDGsマップ

(R6年度目標)

サポーター養成に必要な参加者数の確保

○インセンティブを明確化

○現場に触れる機会を創出

○アウトリーチを推進

○次の行動に繋がる受け皿

Ex.地産地消の循環を一連の講座にする

行動変容に繋がる講座・プログラムとは…

ワークショップ、1階運営、自由来館対応

名称	対象・規模	概要
◆ワークショップ(1か月程度)		
夏、冬、春のワークショップ	子ども・子育て世代 200~400人/月程度	年3回、1か月程度の期間を設定し、20件程度のワークショップ・講座を実施。市民団体の活動の場にもなっている。
◆1階運営、自由来館対応(開館日、1年間)		
ものづくり工房	子ども・子育て世代 5,000人/月程度	常設のワークスペース。廃材利用し自由に工作ができる。来館者の大半を占めている。受付及び安全管理

(R5年度目標) 年間を通じた開催

- 夏、冬、春の
ワークショップ期間
- ものづくり工房の運営



(R6年度目標)

- 『来館すると、いつも何かやっている』
イメージを醸成
- 夏、春のワークショップ期間
 - 土日祝日の開催
 - ものづくり工房の運営
(コンセプトの更新)
 - カフェスペースの土日運営を
試行